

令和2年度 第3回 宇都宮市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 議事録

■ 日 時

令和2年12月24日（木） 午後6時～7時40分

■ 場 所

宇都宮市役所14階 14大会議室

■ 出席者

〔委 員〕 中塚委員，三條委員，唐木委員，塩澤委員，檜山委員，浜野委員，  
大山委員，依田委員，生井委員，大金委員，大森委員，樺澤委員，  
鈴木委員

〔欠 席〕 横松委員，金子委員，松本委員，朝野委員

〔事務局〕 高齢福祉課長，高齢福祉課介護保険担当主幹，高齢福祉課課長補佐，  
高齢福祉課企画グループ係長，相談支援グループ係長，  
福祉サービスグループ係長，介護サービスグループ係長，  
認定審査グループ係長，介護保険料グループ係長，  
地域包括ケア推進室長，地域包括ケア推進室事業グループ係長，  
高齢福祉課職員2名，保健福祉総務課職員1名，保健所総務課職員1名，  
計画策定支援業務受託事業者1名

■ 公開・非公開の別

公 開

■ 傍聴者

なし

■ 会議経過

1 開 会

2 議 事

(1) 報告事項

- ・ 生活支援体制整備事業の進捗状況について

(2) 協議事項

- ・ 「第9次宇都宮市高齢者保健福祉計画・第8期宇都宮市介護保険事業計画（地域包括ケア計画）」（素案）について

### 3 その他

- ・ 敬老祝金の見直しについて

### 4 閉 会

#### 《発言要旨》

#### (1) 報告事項（生活支援体制整備事業の進捗状況について）

- |      |   |
|------|---|
| 大金委員 | 「第2層協議体」について、今年度末までに全地区での設置を目標としていたと認識している。未設置の地区においては、第2層協議体の目的や、そのために地域はどうすべきかについて、「具体的なアドバイス」を行っていく必要がある。  |
| 三條委員 | 第2層協議体の設置が進む中で、ひとり暮らし高齢者の見守りや高齢者の居場所づくりなどの検討が進んでいるが、それをお手伝いする担い手の関わり方の明示が必要である。   |
| 中塚委員 | 資料中、「第2層協議体の進め方について苦慮している地区もある」とのことだが、どのような問題がネックとなっているか。   |
| 事務局  | 地域課題や地域資源などに関する情報共有や情報交換を行うことについて、進め方が分からないという意見が受ける。陽南地区では、協議テーマによって会議に参加する団体を見える化しているほか、「地域福祉事業調査票」を活用して各地域団体の活動内容や課題を見える化し、構成団体間の情報共有を図っている。今後とも、このような好事例を情報提供することにより、各地区での議論を促進していきたい。  |
| 中塚委員 | 第2層協議体は、様々な団体が参加し、自分たちの強みを活かしていくことが大切である。このため、このような好事例や、地域別データ分析の結果を積極的に公表していただき、各地区における協議体の設置に向けた活発な議論を促していただきたい。<br>一方で、「生活支援コーディネーター」についても、重要な役割を担うことから、様々な経験を持ち、地域の事情を良く分かっている方が適任と考えられるので、第2層協議体の設置を推進していく中で、地域と連携しながら適任者の選定にも努めていただきたい。 |
| 事務局  | 引き続き、地域の協力を得ながら、第2層協議体や生活支援コーディネーターの設置を進めていく。   |
| 依田委員 | 第2層協議体については、地域の温度差があり、何をやって良いか分からない地区もあると思われる。好事例を共有するだけでなく、進んでいない地区が進んでいる地区に研修に行くという方法もある。   |

具体的な取組の担い手については、「ボランティア」というと身構えてしまうので、日常生活の些細なことから支え合いを始められるよう、アクションを変えてみると良い。

(2) 協議事項 (次期計画の素案について)

中塚委員 「もの忘れ相談会の開催」(事業No.101)について、「地域別データ分析でもの忘れリスクの高い傾向にあった地域」とあるが、当該地域にはどのような特性があるか。

事務局 今回の分析では、明確な特性があることまでは分かっていないが、このような地域を中心にもの忘れ相談会を開催することにより、より多くの方の早期発見・早期対応につなげていきたいと考えている。

中塚委員 傾向だけでなく要因を分析することにより、根本を絶つことができるようになると思われる。もの忘れ相談会は重要なので、しっかりと取り組んでいただきたい。

三條委員 私は、もの忘れ相談会の相談員をさせていただいている。よほどでないかと相談に来られない状況もあるので、もの忘れ相談会を定着させていくことが重要である。

「老人措置事業」(事業No.95)について、養護老人ホームの年間措置者数は。

事務局 令和元年度は89名であった。

三條委員 コロナ禍で養護老人ホームなどの需要は高まっていると考えられるが、対象となるような方がいた場合の相談先は高齢福祉課でよいか。

事務局 養護老人ホームは、契約で利用する介護保険施設などとは異なり、一定の状況を勘案した上で、市が決定することにより措置として入所していただく施設である。相談先は、地域包括支援センターまたは高齢福祉課となるが、必ずしも措置となるわけではなく、まずは介護保険施設などを利用していただくこともある。

大山委員 措置の入所判定には一定の時間を要する。緊急を要する場合は、「高齢者短期宿泊事業」(事業No.88)による一時的な預かりが可能である。

先ほどの令和元年度の措置者数(89名)は、新たに措置した数か。  
また、入所判定委員会は何回開催したか。

事務局 89名は、新たに措置した数ではなく、市外施設も含めた年度末の入所者数である。

入所判定委員会は、事案の数にもよるが、基本的には2か月おきに年6

回開催しており、令和元年度は6回であり、新規入所者数は20名であった。

大山委員 措置入所の決定が速やかに行われるよう、もっと短い期間で入所判定委員会を開催していただきたい。

「感染症発生時の適切な対応に関する助言・指導」（事業No.65）について、県からではなく、本市独自に対応できるものはないか。

また、クラスターが発生してからではなく、日ごろからの助言・指導については記載しないのか。

事務局 県から示された「標準例」では、発生後だけではなく、平時からの備えに関するチェックリストも含まれており、感染症対策の1つとして、こうしたツールを全事業所に情報提供しているところである。

実際の対応に当たっては、実地指導や集団指導などの機会を活用しながら働きかけをしていきたい。

大山委員 通常の実地指導や集団指導ではなく、クラスター発生を防ぐための研修などを行っていただきたい。

事務局 事業の中での位置付けは説明したとおりだが、当然、そういう視点も必要である。これまで感染症対策に関する研修会などを実施しているが、今後も保健所と連携しながらできることを考えていきたい。

依田委員 新型コロナウイルス感染症については、県内の介護保険施設2か所でクラスターが発生したが、利用者を入院させるのではなく、施設内での封じ込めを行っている状況であり、医療が逼迫してきている中で、施設ごとに対応する方向に変わりつつある。このため、市が独自に対応するのは難しいかもしれないが、事前の指導や助言は益々重要となる。

コラムの「最後まで自分らしく生きるために」について、「人生会議」に「ACP」という用語も付け加えた方が良い。

### 3 その他（敬老祝金の見直しについて）

依田委員 論点は何か。

事務局 元気な高齢者が増加していることや、男女とも平均寿命が80歳を超えてきていることを踏まえ、現行の「80歳」とする対象年齢やその金額について見直しを検討しているところであり、このことについて各委員の立場から率直な御意見を伺うものである。

中塚委員 他の自治体の参考事例はあるか。

事務局 今年4月に他市が行った中核市への照会結果では、53市中52市が

敬老祝金贈呈事業を実施，そのうち32市が祝金を支給しており，その半数近い15市が「見直しを予定している」とのことであった。

また，80歳または77歳で祝金を支給しているのは10市であり，全体の約19%にとどまっている状況である。

中塚委員      このようなことが検討されるのは時代の流れなのかと思われる。80歳の対象年齢をなくしたとしても，その分，何らかの高齢福祉施策の充実を図る必要はある。

生井委員      市歯科医師会としては，健康長寿は歯の健康からということで，毎年，80歳で20本以上自分の歯を保っている方に対し，市と共同で表彰しており，80歳はひとつの節目と考えている。

受賞者の方は非常に喜んでおり，健康長寿への励みになっていると考えられるので，敬老祝金についても，まずは内容を変えることから検討していただきたい。

大山委員      介護保険施設においても，表彰状は，「市長さんからいただいた」，「知事さんからいただいた」と，喜ばれている。

依田委員      100歳では内閣総理大臣からお祝い状が届くということで，自慢げににこにこして話す高齢者がいるのも事実なので，お金ではない何かがあっても良いと思われる。

委員長      人口構成が変化し，前期高齢者より後期高齢者が多くなっていく中，このような検討をしていくことは大切である。

事務局      事務局としても，この事業は大変重要であると認識しており，継続を前提に時代に対応した見直しを検討している。皆さんの御意見を参考に，引き続き検討していく。

以上